

オタゴポリテク留学帰国報告会開催

19人の学生がニュージーランドでの体験を熱く語る

「平成23年度オタゴポリテク留学帰国報告会」が金沢高専合同講義室で4月20日午後6時30分に開催された。

約1年間の留学を終えた19人の学生（男子学生14人・女子学生5人）は3月22日に無事帰国した。親元を離れての慣れない外国での生活の中から楽しさ、そして大きな糧を得ての帰国である。1年と聞けば短い17歳の少年少女にとっては、その異文化での生活、1年は大きな1年であったと信じる。

ある学生は「周りは全部英語、お米は細長く、近くの工場から漂うチョコレートの匂いが外国にいることを実感させた」と話していた。彼らは目、体、心で、ニュージーランドを経験し生活力、人間力、英語力、また人々との友情を大いなるお土産として帰国した彼らの報告であった。約150人の参加者が会場をうめつくし、発表学生を含め、ほぼ満員であった。帰国学生、今年度の出発学生とその両方の家族、留学に興味のある1、2年生とその一部の保護者、昨年の帰国学生、卒業生、そして部活を終えてやってきた高専生と高専の教職員が彼らの報告を見守った。

向井守副校長の司会で始まり、山田弘文校長が「留学生一人ひとり立派に親善大使としての任を果たした」と彼らを讃え「今後は、日本の国が求める高い国際視野を持つ技術者として社会に巣立つために研鑽してほしい」とあいさつした。

その後、電気電子工学科の伴田将志君、藤田英晃君、の司会で彼らの発表が始まった。全ての発表は日英2カ国語で行われた。

トップバッターは、後藤啓吾君(T4)、東野修斗君(M4)、横井信也君(M4)の3人が課外学習について発表した。ダニーデン郊外への小旅行、スキー旅行、海水浴、クイーンズタウン旅行、そして谷底に飛び込むバンジージャンプなどを報告した。

その次には、中嶋信行君(M4)、柴田裕樹君(M4)、紙井敦史君(M4)がニュージーランドでの生活と題し、日本人教会での体験、ダニーデンの街、天候などについて話した。

その後、新井美重君(T4)、藤田陸君(M4)、川島崇史君(M4)がニュージーランドで経験した問題について発表した。英語が下手であっても相手の間違いをはっきりと指摘する大切さ、ホームステイ先での衝突、そして



大勢の人たちが集まった会場で発表する学生たち

ダニーデン市内のバス運行など日本では経験したことのない問題について説明した。

伴田君(T4)、藤田英晃君(T4)、高出知典君(G4)グループはオタゴポリテクで指導を受けた専門、英語、実習、そして生活の先生方を紹介し、彼らへの感謝を表した。

中川萌花さん(G4)、松井璃那さん(G4)、古田万智さん(G4)はそれぞれのホームステイ家族を紹介した。それぞれのホームステイが最高だと言わんばかりにそれぞれの家族との思い出を語った。

塩屋優希さん(G4)、舩井彩香さん(G4)は日本とは大きく違うニュージーランドの食生活について発表した。最初は匂いや味に戸惑いを覚えたが、帰る頃にはニュージーランドの食べ物が大好きになったと話した。

最後、小坂明德君(M4)、平野太陽君(M4)の二人がニュージーランドでバンドを組み、演奏を披露した喜びについて語った。

どの発表も彼らの思いが込められ、自信が感じられた。彼らの発表の後には、平成23年度高専英語スピーチコンテスト入賞者の道中悠輔君(G4)と菊田楓さん(G4)のスピーチが披露された。スピーチの内容、英語力、そしてプレゼンテーション技術が会場の人々を感心させた。

当日、京都からご家族で駆けつけてくれたT4の新井君のお母さんが保護者代表謝辞に立った。「子供の笑顔の帰国を喜んでいる。きっと楽しいだけではなく、落ち込んだり、耐えなければならなかったことなど、様々な経験が今後の血となり、肉となり、そして力となることを信じている。今日本が直面している山積みの問題も若

くて行動力を持つ皆さんが外国の人々と対話することで解決していくものと思う」と話し、また、高専の教職等に感謝の意を表した。(下記に掲載)

最後に向井副校長が留学をこの報告会を持って完了させた19人を讃え、それぞれの家族の理解と支援に感謝し、

4月26日に出発する学生たちの1年の無事を願いながら閉会を宣言した。

参加者はその後、写真撮影と懇親会へと進んだ。

平成23年度留学生帰国報告会保護者代表あいさつ

素晴らしい発表会に感慨無量

新井ゆかり（新井美重君の母）

本日は、ニュージーランド留学の最後の仕上げとして、このような素晴らしい報告会を開いて下さいました事、校長先生、向井先生、大原先生、松下先生をはじめ、この留学に御尽力下さいました全ての皆様方に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。一人ひとり、たいへん素晴らしい発表でした。

留学する前、校長先生は「君たち一人ひとりが外交官である」とおっしゃって皆の背中を後押しして下さいました。そしてその1年後、その言葉に恥じない凛々しい外交官ぶりを本日この目で確かめられたと、保護者の皆様も、そのように感じておられるのではないのでしょうか。私も感慨無量です。

平成24年3月22日(木)、子供たちは、皆笑顔でこの高専に帰って来ました。家に帰ってからも、子供の楽しい土産話に毎晩遅くまで盛り上がりました。しかし、ふと思ったのですが、この楽しい土産話の裏で、実は知らない土地で苦勞し、失敗があったり、落ち込んだり、時には歯をくいしばって耐え、ひとり涙したこともあったことでしょう。今日の報告を聞き、改めてそう確信しました。

しかし、その苦勞が実りある学業を修めることになり、笑顔の帰国となり、そして、この報告会へとつながってきているように思います。この1年間の体験が、血となり肉となり子供たち一人ひとりの力となっていると思います。

金沢での学校生活が始まってから、間もなく、1カ月となります。帰国した皆さんも感じておられると思いますが、いま日本は、東北の震災、原発問題等、さまざまな問題が山積しております。今こそ若くて、行動力があり、また、斬新なアイデアを持ち、他国の人々と対話ができる皆さんの様な人が本当に必要とされています。どうぞ、残りの学校生活、これまで同様、よく学んでください。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいは弟さん、妹さん、皆、一生懸命努力している皆のことを誇りに思っていますよ。

先生方、これからご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

簡単ではありますが、保護者の皆様に代わりましてお礼のあいさつにかえさせていただきます。